

海を守る

プラごみのう

9

いよいよ夏の盛りとなり異常とも言える暑さの中、海岸での長時間の清掃活動が難しくなってきた。

当館は毎月1回、いわき市内のいくつかの海岸で漂着ごみの状況を確認している。種類としては、ペットボトルや洗剤の容器、割れたプラスチック片などが多い。レジ袋やビニール袋といった柔らかな物はあまり見かけないので「海に流れ込む量はいったんかたがたではないか」と思いがちだが、海底には多くのレジ袋が落ちていているようだ。

「しんかい6500」などで深海の調査を行う海洋研究開発機構(JAMSTEC)の研究からは、海底で見つかるプラスチックについてレジ袋などの「使い捨て」プラスチックがほとんどだと報告している。レジ袋が有料化されて久しいが、こ

海底には多くのレジ袋



アカマリンふくしま
飼育展示統括部長
岩田 雅光さん

うした研究結果を聞くと、レジ袋が確実に海を汚してきたことが分かる。同機構は「深海デブリデータベース」というウェブサイトで深海のごみの映像を公開している。

当館のシーラカンス調査でも海底のプラごみを確認している。現存するシーラカンスは2種類で、アフリカ大陸の東側とインドネシアに1種類ずつ生息



シーラカンス生息地近くにある川の沖合、水深200m以上の海底
2007年、インドネシア

している。インドネシアでの調査では漁師が釣り上げたシーラカンスを何度か解剖する機会にも恵まれた。

2011年に捕獲されたシーラカンスは胃の中からボテトチップスの袋が見つかった。シーラカンスは水深120mより深い岩場に生息している。待ち伏せて餌を食べるため、目の前を通り過ぎる小魚などを捕まえている。人の生活圏近くにも生息しており、市街地のすぐ沖がシーラカンスの生息地であることも多い。

シーラカンスの生息が確認された、市街地に流れる川の沖合の海底を調べてみると非常に多くのごみが確認された。生きた化石として知られるシーラカンスもプラスチックごみ汚染の脅威にさらされているのだ。

いわたまきみつ 兵庫県出身北海道大水産学部卒。2000年のアカマリンふくしま開館以来、シーラカンス調査のメンバー。近年は海洋プラごみの削減活動に取り組む。22年から飼育展示統括部長。58歳。

▲ 8月8日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと (330字程度)

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

シーラカンスなどを、プラスチックゴミの脅威から守るために、私たちにできるのはどんなことだろう？

